



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

学生になりました

海外宣教者を支援する会 会長 村上 芳隆（フランシスコ会）

27年ぶりにサバティカル（研修期間）をとっています。この原稿を書いているのは滞在先のローマです。サバティカル期間は、昨年10月1日から今年の2月末まで。管区長職任期满后の2023年度は、少し休もうと思っていました。しかし、一念発起して、ローマのグレゴリアン大学で開かれる講座受講を申し出たら新しい管区長から、すんなり許可を得ました。ところが、わたしの思惑は外れてしまいました。

この講座は2023年10月から始まりました。9月まで六本木修道院でゆっくり準備しようと考えていました。ところが、4月の新しい人事の件で長崎への異動を打診されました。10月からのローマでの講座はOKという条件でした。長崎では35年ぶりに小教区司牧の仕事に戻りました。

サバティカルコースの形態も変更されました。9月末にローマに来るように指示されていましたが、復活祭後には前半3ヶ月はオンラインで、仕上げをオンサイト、つまりローマで受講するように変更されたのです。ローマ滞在が短くなるのでビザ申請する必要がなくなりましたが、時差は思ったよりも大変でした。

♥♥もくじ♥♥

巻頭言	1
第91回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ	10
ECHO	11
[追悼文]	12
連載「海外宣教」	14
新しい支援者・事務局より	16



さて、受講している講座は、「未成年者と弱い立場の人の保護 (Safeguarding of Minors and Vulnerable Persons)」というものです。これは、カトリック聖職者による未成年者への性加害という大きなスキャンダルに、適切に対応するための実践者養成講座です。この講座は2015年に開講され、現在は英語とスペイン語を交互に一学期間の設定で公開されています。

授業は、特別講演が時々ありますが、講義はほとんどありません。論文や文献、ビデオ (YouTube) 等を前もって読み、事前課題の質問に答え、クラスではそれを16名の〈学生〉たちがグループに分かれて議論や分かち合いをして深める、という形態です。そして毎週、①何を学んだのかという「タスク (課題)」と、②学んでいる間に自分に何が起こったのかという「リフレクション (振り返り)」のレポートを数本提出します。これは大変ですが、学んだことを身に着けるための優れた学習方法論です。試験はありません。

最終課題は論文ではなく、受講している〈学生〉たちの現場でセーフガーディングの意識を広め深めるための養成プログラムを作成して発表し、提出することです。徹底的に実践志向の講座です。〈学生〉たちは皆、悪戦苦闘していました。しかし、これもグループワークを通して協力しながら作成するので、皆の絆は強いものになりました。

受講者たちのほとんどがアジアからです。日本、韓国、フィリピン、マレーシア、バングラデシュ、パキスタン、インド、アフリカからエジプト、ケニア、ウガンダ、そして、ドイツから一人。16名の内、5名が女性で、内3名は既婚の女性信徒、2名が修道女です。2人の信徒は教区から派遣されており、すでに実践者として働いている人です。他に11名が教区や修道会から派遣された司祭たちです。内5名がフランシスコ会員で、セーフガーディング担当者として任命された兄弟たちです。わたしたちはサン・イシドロ修道院から毎日15分ほど歩いてグレゴリアン大学に通っています。

振り返ると、とても恵まれた環境でした。わたしたちは生活する共同体、学費、生活費などをすべて、フランシスコ会総本部が準備し、支払い、保証してくれました。日本や海外で学んでいる多くの留学生には恵まれない人たちも多いでしょう。貴重な学びと出会いの機会を与えられたこと、多くの人の祈りに支えられてきたことを、心から感謝しています。

□■□ 第91回運営委員会議事録 □■□

日 時：2023年12月9日 (土) 12:00～13:00

場 所：聖フランシスコ修道会 聖ヨゼフ修道院2階教室

参 加：運営委員11名 欠席1名

・会議開始にあたって、11月29日に帰天された、前事務局長・八幡とも子さんのために追悼の祈りを捧げた。

議 事

I. 「きずな」165号について

- ・宣教者のお便りは少なかったが、9月16日に行われたシスター延江による「宣教者のお話を聞く会」の報告や司教様、神父様より記事を頂いて充実した誌面となった。

II. 「きずな」166号について

- ・巻頭言は未定。

III. 援助申請

- ・アフリカ シエラ・レオネのシスター白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）より、幼稚園の子供たちにノートと鉛筆を購入する費用の援助申請 詳細は8頁
3歳児にはノート1冊、4歳児と5歳児には2冊ずつ……………\$650.00
鉛筆……………\$300.00
合計\$950.00（日本円でおおよそ¥138,700） 承認された。

IV. その他

- ・国内「きずな」165号業者発送12月4日 2802通
- ・国内「きずな」165号事務所発送12月1日 55通 ボランティア3名
- ・海外「きずな」165号事務所発送12月1日 101通 ボランティア3名
- ・海外「雑誌」事務所発送10月31日105通 ボランティア1名。
- ・海外「きずな」165号封筒に一言書き添えたクリスマスカードを同封。原画は成城教会信徒に描いて頂いた。 前事務局長の訃報も書き加えた。
- ・クリスマスカードを国内司教様他、合計42通送付。国内修道会にはこれから送付予定。
- ・前事務局長八幡とも子さんの葬儀ミサが、12月1日カトリック成城教会にて山本量太郎神父司式で行われた。「支援する会」よりお花をお送りした。
合わせてここ二年くらいに支援する会の運営委員、元運営委員が、他に5名帰天しているので2024年に合同の追悼ミサを行う予定。
- ・事務所の冬休み 12月23日～1月4日

次回運営委員会 2024年3月9日（土） 13:00～





宣教者からのお便り



フィリピン

◆バラカン◆

移転の計画があるようです

慰めの聖母アウグスチノ修道会 奥田久子

10月TMMRの運営会議があり、会議に参加したシスターによりますと、現施設的环境が頻繁に水害に見舞われる地域ということで施設の運営に支障をきたすので、移転の計画があるようです。もっとも予算がありませんので、賃貸で借りられる建物を探すという方向のようです。

現施設の改修工事等の計画は今後のことを考えるとあまり有効ではなく、移転までに巨大台風等にまた見舞われないよう気を付けていくしかありません。移転が具体的にになりましたら、必要家具等を申請させていただくことになるかもしれません。進展がありましたら、またご連絡させていただきます。

施設の児童たちは、12月に後援者を招いてのクリスマスプログラムがあるので、目下、そのプログラムの出し物の練習に励んでいるとのことです。来週はこちらの農園の養殖池でも魚(tilapia)の収穫が予定されており、収穫した魚は施設のほうにも毎回届けています。こちらの学校は毎年12月4日に創立記念日をお祝いするので、その準備もこれから始まります。

イスラエルやウクライナの戦争状態は一向に終息の気配が見られませんが、共同体では日々、平和の祈りを捧げています。キリストのうちに。

オーストラリア

◆ルーティーヒル◆

アートを通していのちを分かち合う

マリアの宣教者フランシスコ修道会 岡部真衣

宣教とは何でしょうか？オーストラリアに派遣されてまだ半年の私には、まだまだ分からないことだらけです。自国にあっても、外国にあっても、いつも「宣教って何？」と思っていました。色々な先輩方の生き方から教えていただき、知識は少しずつ増えていくのですが、「分かった」というにはほど遠い感触です。ですから、一体何を書いたらいいのだろうとしばらく考え続けていましたが、〈宣教〉、つまり〈教えを宣べ伝える〉というこの文字から視覚的に影響を受け、少し硬く考えすぎているのではという気づきに至りました。ただ素直に、〈今ここで見たこと、聞いたこと、感じたこと〉をお伝えしようという気持ちになっています。

【ボランティア・ワークについて】

さて、その前に少し私の置かれている場所、そして立場について説明させてください。この地での私の初めての仕事場は、シドニーの郊外、ルーティーヒルというところにあるカトリックの高齢者総合施設です。オーストラリアは長寿国として知られ、日本のように少子高齢化の傾向にあります。この施設は〈慰めの聖母〉と呼ばれ、老人ホーム、ホステル、ウェルネスセンター、管理棟など、いくつもの棟が集まってで

きています。全部で300名ほどが入居しておられ、それぞれの生い立ちや背景、現在の健康状態も様々。入居者も職員も、国際色豊かで本当に色々な方がおられます。そこで管理運営に携わるシスターが2名、現場でパストラルケアを担当されているシスターが1名、他は入居者として司祭・修道者がいらっしゃいます。皆さん私服を着ておられるので、誰が司祭で誰が修道者なのか、見た目ではほとんど分かりません。都心から西にだいぶ離れたところにあり、周りは住宅地ばかり。〈慰めの聖母〉の敷地だけでも広大で、ある意味、〈村〉のように感じます。小さいですが、そこには世界の縮図がある…といった印象です。このような場所で、レクリエーション・チームの活動の一環として、アートを提供するボランティア・ワークをしています。週5日、アート・セラピストと一緒に、毎日異なる棟を訪問し、ぬりえや水彩画、時には工作などを入居者の方々と一緒にしています。

【高齢の人々とアート】

ぬりえや水彩画、工作は、単に楽しみのためというだけではなく、手指を使うリハビリとしての役割、またお一人お一人の心を映す鏡としての役割もあるように思います。また、カンパセーションピースとして、私たちとの会話のやりとりを促すきっかけにもなったり、同じ体験を共有することで仲間意識を促したり、という効果もあるようです。中には、元々、画家だったという方も数名いらっしゃり、以前のような筆遣いはままならなくても、彼らのアイデンティティを支える大事な活動となっています。

色の意味や印象は、育った文化背景により異なる場合がありますし、なぜその色を選んだか、

なぜその色が好きなのかという分析は専門的な知識を持たずして簡単にはできません。しかし、毎週同じメンバーと一緒に活動していると、その人の、その日の気分や体調、心の状態が、何となく伝わってきます。色だけではなく、筆致、選ぶ図柄…一日として同じ日はありません。時には、その人が何度も口にする言葉から、心の底にずっと持ち続けているわだかまりや思いというものが感じられることもしばしばです。ご高齢の方々は、シンプルなありのままのお姿を次第に顕わにされているという印象を持っています。長い年月を生き、時には誰にも言えない苦しみや悲しみをくぐり抜け、人からは見えないところで小さな努力を積み重ねながら生きてこられた、その〈時〉というものを感ずると、思わず締め付けられるような思いになることもあります。

＜次号につづく＞

東ティモール ◆アタウロ◆

東ティモールでの聖マリア会の活動

聖マリア修道女会 荒井 祥恵

私たちの修道会が東ティモールに到着してから（2022年1月末）現在にまで、この国に根を下ろすために、そして私たちが住んでいる地域の必要に適切に答えて行くために歩み続けて来ました。私たちがいるアタウロ島は、2022年1月に独立自治体として宣言され、財政、行政、その他あらゆる面で新たな可能性がもたらされました。しかし、このことは、官僚的な手続きや行政からの正式な承認という点で新しい要請も意味します。

最初の頃、私たちは、ここである（Tetum 語）を学ぶことと、私たちが知っている言葉（スペイン語、フランス語、ポルトガル語）と、観光客の誘致を手伝うということで、人々が興味を持っていた英語を教えることを始めました。最初のうちは椅子も机も足りず、青空教室でした。その後、アジアとヨーロッパの様々なグループからの支援で、コンテナを使って教室を立てることができ、このことは、尊厳のある授業を可能にしてくれました。現在、授業のためのスペースは机、黒板、エアコンを備えた4つの教室と、倉庫、事務室で構成され、2022年11月2日からフルに使用されています。また、私たちの家での活動に参加するさまざまなグループに対応するため、台所とトイレを建設することも出来ました。このようなスペースがあるおかげで、語学クラスだけでなく、他の教育的、社会的、宗教的な活動も可能になりました。2023年7月から8月にかけて、3人のスペイン人専門家が私たちの家に滞在し、ボランティアとして協力しながら、様々な家庭訪問や、私たちの修道会のプログラムに参加する3歳から14歳の子供たちの登録を通して、ここに住む人々をよりよく知ることができるようになりました。そして、国連が承認した開発目標に基づいて、子どもたちへの配慮と適切な教育が優先的な必要事項であると確認することが出来ました。2023年9月より、あらゆる年齢の子供たちが毎日通い、学校での学習を補い、感覚面、情緒面を統合した支援、より良い栄養状態の支援も受けられる社会教育センタープロジェクト（レストナック社会教育センター）を開始しました。このセンターでは、学習支援（小学生は1日2時

間、中学生では1日3時間）とともに、心身の発達に必要な栄養素を含む食事を1日1食提供する栄養改善の支援も行っています。また特に若者を念頭に置き、彼らの就職を助けるための、職業訓練コースを始める予定です。さらに、学校や私たちのセンターで子どもたちが学ぶことを、家庭でも継続できるように、サポート・トピックを用いて、特別な配慮をした家族への研修も行っています。私たちは、アタウロ島の山間部の住民とも働いています。会がこの島に来た当初から、この地域のための司牧活動は、教区の司教である Dom・Virgilio・do Carmo 枢機卿の明確な要請として、優先事項と考えられてきました。山間部にはインフラが整っておらず、私たちはこの国の言葉を知らず、車を持たず、教区司祭の都合に頼らざるを得ないなどの現実が課せられていたため、当初この活動は困難なものでした。しかし、そのような場所であるにもかかわらず、人口は多いのです。電気も水道もなく、道路はしばしば通行不能で、学校は小学校だけです。しかし幸いにも、さまざまな団体からの寄付のおかげで、私たちは定期的に Makadade に行くための車を購入することが出来ました。定期的な訪問は、子どもたち、若者たち、大人たちの養成を促進しました。青年たちにも支援活動を行っていて、彼らには英語と音楽が好きで、教会でよく歌の練習をするので、歌が上手で容易に参加できます。大人たちの場合は、ナザレのイエスの姿を中心にした養成計画に従って、今年は回勅『ラウダート・シ』を深く読みました。ここでの家庭訪問で、適切な医療を受けられなかったケースにいくつか出会いました。それは、国の官僚主義や、援助を

要請する際に生じる色々な障害に直面した時に、この人々が余りにも消極的な態度を取った結果でした。私たちは優先的にこれに取り組む必要があると思いました。健康上の問題で、未だ適切な対応はなされていませんが、社会福祉サービスが受けられる場合もあります。このようなケースは常に、家族は隠していて、私たちが家庭訪問の時に発見する、情緒面・精神面の病気のケースです。今の私たちにとって最も緊急なことは、プロジェクトに参加するすべての子どもたちへの給食費と、調理場や教育活動のための補助スタッフの雇用費を、2024年まで継続的に賄えるようにすることです。そのためには毎月2,500ドル(約25万円)の資金が必要で、これまで支援してくださったさまざまな団体やグループから皆様に、引き続きご支援をお願いしたいと思っています。

インド ◆ナガランド◆

インド通信 23 その1 10月8日

メディカル・ミッション・シスターズ 延江 由美子

数日前にナガランドにあるMMSの修道院に到着しました。季節外れの雨が続くこの頃。6日、北東部はシッキム州で大洪水が発生したことはおそらく日本でも報道されているでしょう。今のところ、ここチュムケディマは安全です。ただ雨が降り続けると停電になり、不便極まりないです。道路は舗装されてはいるものの大きな穴がそこらじゅうにあって、そこに水が溜まって池のようになっているので、どこへ行くにも一苦勞です。

前回の訪問は11月と12月でしたからほぼ1年ぶり。その後もどんどん都市化されていると感じます。昨日は、ナガランドにある23校の大学対抗スポーツ大会にちょこっと行ってきました。この共同体には3人の若いシスターがいて、それぞれ異なる大学に通っています。修道服を着ているせいか彼女たちは参加していませんが、雨が降ろうがお構いなしで大いに盛り上がっている大会の様子をしきりに話すので、見てみたいと思ったのです。

目にした光景はわたしにとって別世界でした。大きなフィールドのあちこちで繰り広げられるサッカーやバスケットボールの競技を、校舎から学生たちが鈴なりになって見物しています。フィールドでは声を枯らして応援する仲間たち。それ自体は何も珍しいことはありませんが、ここはインドで、しかもナガランドで、そして数年前に立ち寄ったジャカマ村(「いのち綾なす」の地図をご覧ください)でのスポーツ大会に比べるとはるかに“ポップ”だったからです。自分が持つナガランドのイメージがまた刷新されました。

学生の多くはナガですが他にもさまざまな民族がいます。女子のほとんどが漆黒の長く美しい髪を束ねることなく垂らしています。男子にもキリリと引き締まった美形が実に多い。修道服を着た学生シスターたちは自分たちでグループになって見物していました。ちょっと浮いて見えるのはやっぱり「浮世離れ」してるからですかね？

その中にマニプール州出身のシスターがいました。ナガかな？と思いましたが、聞くとクキ族でした。そう、彼の地で今年の春から非常な



ニシ族の女の子

惨事に見舞われている人々です。「家族は無事だけれど、着の身着のまま避難したの。何もかも失ってしまったわ…」と話してくれました。マニプールへはナガランドから

は入城できないけれど、アッサムを通ってミゾラムからなら入れるそうです。

今日はこれから、MMS とは別の修道会の誓願式（シスターになる儀式）に出席します。誓願式といえば今回北東部に来る前に、インド本土はマディア・プラディッシュ州で行われたMMSの誓願式がありました。北東部以外の地では私たちは修道服でなくてサリーを着ます。久しぶりのサリーでした。 <次号につづく>

シエラレオネ

◆ルンサ◆

ノートと鉛筆の支援を

御聖体の宣教クララ修道会 白幡和子

こちらの玉川白百合幼稚園は1990年に東京の玉川学園と東京の白百合学園のおかげでできた幼稚園です。これらの二つの小学校のおかげで幼稚園ができたので、その時の管区長がどうしてもそのお名前を幼稚園の名前にしましょう

と言ってつけました。 そのころ私は小学校で働いていましたが。働く小学校の先生の子供たちが小さく、家に一人でいられないので先生たちが学校に連れてきて自分のお教室のすみに子供を置いていたのが始まりでした。はじめは3クラス全員で50名ぐらいから始まりましたが、だんだん増えていきました。以前中高で教えていたシスターレティシア根岸（故人）が日本に帰ったとき。小学校と幼稚園の子供たちが何も食べないで学校に来ておなかを空いて午後にも勉強できないので、日本でルンサの子供たちに給食支援を始めたのですが、当初は小学校、中高のためでしたが、1990年からは幼稚園でも給食がはじまりました。10年前にシスター吉田の勧めで幼稚園に新しい3クラスができて（日本のある会社の方が150万円をくださって、3教室ができました。床も壁もタイルでとてもきれいでした）今は3歳から4歳5歳のクラスが3クラスずつあります。今までは日本から来た鉛筆を使っていましたが、それらもうなくなりました。この3年間郵便が来ないのです。それはコロナのためです。ノートには余った紙などを使っていました。今援助をお願いしているのは年にノートを3歳児と4歳児に一冊、5歳児に2冊です。こちらの80ページのノートは2冊で10レオネです=50セントです。

鉛筆は1年で一人に2本ずつあげますが、使った鉛筆を先生に見せて新しいものと交換します。一本の鉛筆は5レオネで、25セントです。5歳児には1本、3歳児と4歳児には2本ずつあげます。大体このようなようすです。どうぞよろしくお願いいたします。皆さまのために子供たちと一緒に祈りをしています。

メキシコ

◆グワダラハラ◆

看護師付きの修道院へ

ベリス・メルセス宣教師道女会 眞 神 シ ゲ

クリスマスの花、ポインセチアが咲き始めました。寒くなってきました。クリスマスの寒さと言っていました。金太郎飴のようにどこを切ってもクリスマスが出てきます。皆様が良いクリスマスを過ごされますよう、心から願っております。

この4月、支援をいただきました婦人講座。木曜日にも始め、続けることができました。要するに、火曜日には栄養講座・木曜日には手芸講座をして来ました。参加人数は、多くはないのですが、家庭的な雰囲気を大切に続けています。この日には、私も子供の世話係として、ボランティアに励んでいます？

ここで連絡なのですが、12月私もメキシコのグワダラハラの看護師付きの修道院に行くことになりました。自分のことは自分でなんとかできていますが、動くことのできる内ということですから。婦人講座の支援、来年も続けて頂けるでしょうか？ よろしく願いいたします。



木曜日の手芸教室



クリスマスの花

東京

◆赤羽◆

宣教体験の分かち合い

サレジオン・シスターズ テレジタ・ライソン

2007年に来日してから現在に至るまで、私は移住してきたフィリピン人女性たち（ほとんどが日本人と結婚している）の精神的、社会的、情緒的な悩みに応えるために奉仕しています。私は彼女たちに宗教の面で支えながら、他の宗教活動においても彼女たちと協調しています。

この10年間の日本滞在で、私はさまざまな場所に赴任しました：大阪、大分、浜松、そして現在は東京です。現在は赤羽を拠点に、毎週水曜日に聖母被昇天小教区に通い、聖母へのノベナの祈りやロザリオの祈り、日曜日のミサに参加するフィリピン人女性たちのために奉仕しています。

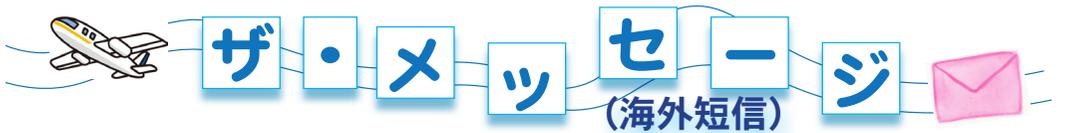
東京大司教から次の日曜日のミサを水曜日に行うというこの特権は、1990年代初め、日本に初めて来たフィリピン人サレジオン宣教師たちの要請に応じて認められたものなのです。シスターたちは、多くのフィリピン人信徒が日曜日にも働かなければならないために困り果てて、次の日曜日のミサの代わりに水曜日に行うという緊急の必要性を感じていました。彼らはこの特別な権利にとっても感謝しています。皆がこちらの教会の信徒たちというわけではないのですが、色々な場所から来ていました。川口、渋谷、浦和、練馬、西新井、蕨、戸田、上尾、小岩などなどです。フィリピン人女性たちは、介護士、家政婦、工場やお弁当センターの従業員、ホテルや病院の世話係、デパートの販

売員、パートタイムの英語教師などの仕事に従事しています。

私は彼女たちの信仰を育み、やがてはフィリピン人共同体や他の日本人（夫、義理の両親、同僚、”ジャピーノ”の子どもたち）と良い関係を築けるように、次のような使徒職を行っています。1) 典礼の援助（聖体の分配、ミサ奉仕者の指導）、2) マリア様の信心の伝達、ロザリオの祈り絶え間ない助けの聖母へのノベナ）、3) 幼児洗礼のためのカテケーシス（両親と代父母に）、4) 家庭訪問と気軽なカウンセリング（希望者のみ）、5) 家の祝福（希望者）、6) ヴィジタ・

イグレスシア - 年1回の教会訪問 - 聖週間の聖木曜日に実施します、7) 富士の聖母への年1回の巡礼（山中）。富士山の聖母巡礼（山中）。

こうした宗教的活動はすべて、彼らの生活を向上させ、やがては家族や他の人々とも良好で健全な関係を築くことに大いに役立っています。私は特別なことをするわけではないのですが、私が彼らと共に活動することで、人生の試練や困難、問題、挑戦、悲劇にかかわらず、彼らが前へ進むための後押しとなるような、生命を与える希望と喜びが生まれることを願っております。



* フィリピン 南コタバト

御受難修道女会 松田 翠

長い間「きずな」をお送りくださり、世界の各地で働いて下さっている宣教師の方々の御消息をお知らせ下さり有難うございます。私がフィリピンのミンダナオ島の南コタバトに派遣されて以来49年の月日が流れ、会の中で働いて下さっている多くの方々に今までの支援を心から御礼を申し上げたいと思いました。日本国内でご寄付をして下さっている方々、事務局で奉仕のお仕事をして下さっている方々本当に有難うございました。帰国しました折、二度事務局を訪ねさせて頂きその折に八幡とも子様にお目にかかり、母の様な優しい支えと励ましを頂きましたことを懐かしく思い出しております。今回はまた沢山の「家庭の友」誌と「カトリック生活」誌をお送り頂き久しぶりに美しい

日本の出版物に触れ大変嬉しく存じました。「カトリック生活」2023年7月号で関谷神父様の「カトリック生活」休刊のお知らせを読ませて頂き、とても驚き残念な思いで一杯です。サンパウロ会が引き続き編集のお仕事をいただけるのでしたらとても嬉しく感謝させて頂きたいです。「家庭の友」と共に「カトリック生活」が閉刊する事なく続けて読者の手に渡るご配慮頂ければ大変嬉しく存じます。私の所にもどうぞ続けてお送りくださいます様お願い申し上げます。カトリック雑誌の日本版は他に手にすることが出来ません。ありがとうございます。

* ボリビア サンタクルス

オガールファティマ乳児院、職員、子どもたち一同
イエスのカリタス修道女会シスターズ
施設長 立石順子

2023年も多くの子ども達に出会い、ベテラン

の保育士さんたちと共に、十人十色の子どもたちの成長を見守りました。初めて笑った顔を見たり、抱っこして小さな温もりを感じたり、やんちゃをして叱ったり、その成長を喜ぶ泣き笑いの日々でしたが、子どもたちの笑顔と輝く瞳に苦勞も吹っ飛ばすようでした。私たちオガールファティマ乳児院家族を心にとめ、惜しみない愛と寛大な支援で応援くださる皆さまに、心からの感謝をささげます。新しい年も神様の愛と祝福、ご加護がありますようにお祈りいたします。幼子イエスが私たちと共にいて、傷ついた地球・世界と私たちを癒し、平和と繁栄をもたらして下さいますように。武器を犁(すき)に、破壊を創造に、憎しみを愛と優しさに変えてくれますように。 祈りと感謝の心を添えて

*** シエラレオネ**

御聖体の宣教クララ修道女会 白幡和子

今年もどうぞよろしくお祈りいたします。皆様の上に神様の豊かなお恵みがありますように心からお祈りしております

*** ブラジル**

日伯司牧協会 国武マリオ神父

ヨハネ・マリア・ヴィアンネ 佐々木治夫神父(福岡教区)は12月27日叙階67年をお迎えになりました。因みに来年1月5日には94歳のお誕生日をお迎えになります。佐々木神父

様は現役を退かれても周りや、遠方の人々を力づけ、多くの人々から慕われておいでです。お元気でこれからも宣教の道をご指導ください。

*** ブラジル**

パニブ通信 524号より

さいたま教区マリオ山野内倫昭司教様がこの度ブラジルサレジオ会の記念行事に招待を受けサンパウロに来られました。11月26日にはサンゴンサロ教会で、エネス主任司祭、尾島紀代治神父と山野内司教司式の日本語共同ミサをお捧げになりました。ミサ後は聖母婦人会のお茶の席を共にされ、信徒の一人一人と歓談のひと時を過ごされました。

*** 帰国**

師イエズス修道女会 内野礼子

この度、ローマでの勤めを終え、2023年9月、日本に帰国いたしましたので、ご報告申し上げます。現在は八王子修道院です。滞在期間中、ずっと「きずな」を送っていただき心から感謝申し上げます。世界の各地での、日本人の信徒、修道者、司祭の宣教活動を伝えてくださり、ある時は、「私も頑張ろう!」と励まされたり、ニュースで気がかりなことが起こるときは、「皆さん大丈夫かしら」と考え祈っていました。新しい派遣者も紹介されていましたが、海外宣教者のためにお祈りしたいと思います。



◇いつもありがとうございます!

(兵庫県宝塚市 カトリック女子ご受難会修道会)

(千葉県船橋市 高田 ひさえ)

◇危険な所も多いと思いますが、福音的な社会になるように宣教をお願いします。

◇「大変な世の中になってきました、みな様方のご無事、ご健康お祈りしています。

(兵庫県西宮市 カトリック仁川教会)

◇平和、希望、喜びに満ちたクリスマスと新年をお迎えになられますように

(千葉県長生郡 十字架のイエスベネディクト修道会)

◇皆様のご活躍を心よりお祈りしております。

(静岡県沼津市 西村 とし子)

◇困難な環境の中で、尊いお働きを続けていらっしゃる皆様を神様が祝福し、報いて下さいます様にお祈りさせていただきます。

(東京都世田谷区 荒川 ひろみ)

◇海外で働かれる宣教師の方々のためにお祈りしています。(東京都港区 酒井 三貴子)

◇「簡単なことではありません」その声は私たちを主イエスにかりたてます。遠い現地からの現場の声をありがとうございます。私たちは祈ります。(福岡県福岡市 森 由理)

◇皆様のお働きを神様が豊かに祝福して下さいますようお祈りいたします。

(千葉県鴨川市 細谷 千恵子)

◇召命減少と人手不足の中シスター方のご負担も大きいと思います。シスター方を待っている人たちのためにシスター方を支えて下さいますよう収穫の主祈っております。どうぞお体に気をつけて尊いご奉仕を続けて行かれますように。

(栃木県那須町 シトー会那須の聖母修道院)

◇海外でのお働き、いつも頭の下がる思いで読ませていただいております。心より心身の健康

をお祈り致しております。

(兵庫県神戸市 森口 耀子)

◇ご活躍をお祈りいたします。

(東京都西東京市 クリスト・ロア修道会)

◇皆様の働きに敬意を。

(大阪府大阪市 櫻井 茂子)

◇2024年も良い年でありますように

(東京都調布市 ノートルダム修道会調布修道会管区本部)

◇愛の献金として

(匿名)

◇「きずな」をありがとうございます。その度ごとに“福音を生きる”を思い起させていただいています。心から神様に感謝です。

(神奈川県横浜 癸生川 節子)

◇本年も良い一年でありますようにお祈りしています。

(東京都調布市 コングレガシオン・ド・ノートルダム)

◇「きずな」を読ませていただいています。みなさまのご活躍に頭が下がります。遠く離れた日本で私たちが祈りをささげております。

(東京都中野区 ベタニア修道会聖ベルナデッタ第一修道院)

◇各国で働く、それもあたりまえの様に働いておられる同志に励まされ、祈りに専念ご協力致します。

(愛知県岡崎市 聖ドミニコ修道女会・岡崎修道院)

◇少額ですが、お役にたちますように！

(東京都目黒区 ヌヴェール愛徳修道会)

追悼文

愛と慈しみの あるところへ

大切なお友達

元運営委員 牧野 ゆみ子

八幡とも子さんのご逝去で1982年の会の創立を体験した方はいらっしゃらなくなりました。

40年前のアフリカ、南米は「地球の裏側の国」と言われ遥かに遠く、派遣されたら二度と会えない覚悟をすることでした。船便で出す荷物の木箱作りから関わられた八幡さんは唯一の通信手段の手紙を使い、細やかに優しく宣教師と振れ合いを持たれ、また帰国時には万難を排し

会われました。八幡さんにとって宣教者は家族だったと感じます。今は創立者の梶川神父様や亡くなられた多くの宣教者の方との再会を喜んでいらっしゃる事でしょう。

長い間お世話になりました

運営委員 諏訪 なほみ

私たちのこの会が、中央協議会の改編で移住協議会から独立して公認団体となったのは、2001年だったでしょうか。事務所が移転してからも、八幡とも子さんは事務局長として新しい体制を整えるべく、ご尽力くださいました。「きずな」の発行、団体の規約作り、三つ折りの案内パンフの作成など、さまざまなつかしい思い出がよみがえります。

広い視野を持ち、揺るぎない信仰をお持ちの方で、ご一緒に楽しくお仕事ができたことに、感謝の念でいっぱいです。いつまでも私たちの活動を見守ってくださいね。

八幡とも子さんを偲んで

運営委員 波多野 真理子

八幡さんと言えばあの優しい笑顔とお声。「お元気だった?」「そう それは大変だったでしょ」そんな風に話しかけて下さると肩の力がスーと抜けていくのを感じたものです。

事務局が中落合の聖母病院の一角をお借りしていた頃に、私はこの活動に参加させて頂きました。いつも穏やかでそれでいて真摯なお仕事に向き合っている姿はとても印象的でした。六本木に移転して、ご病気を経験なさってからは地下鉄の長い階段に少し苦勞していらした様子でしたが、それでもご自分の事よりも

つも人を優しく気遣って下さっていました。お会い出来なくなるなど想像もしていなかっただけに、最後にお訪ねしなかったことが悔やまれました。今はいつも私たちと共にいて下さる八幡さんに心からの感謝を込めて「ありがとうございました」

八幡とも子さんを偲んで

一般社団法人 JLMM

JLMM（旧称：カトリック信徒宣教者会）と八幡さんとのお付き合いは、30年近くに亘ります。JLMMが東京・潮見にあるカトリック中央協議会（中央協）国際協力委員会の下にいたときは、机を並べるようにともに活動していました。しかし、それ以前にも海外宣教者を支援する会が四ツ谷にあったころから、当時学生だった漆原事務局長は八幡さんにお世話になっていたのです。いつでも、あたたかく人を迎えてくださり、温厚な八幡さんは、JLMMを通じて海外へ派遣されていたミSSIONナリーを祈りとともに支えてくださっていました。

かくゆう JLMM スタッフも幾度となく八幡さんに助けていただきました。2000年になってから海外宣教者を支援する会は中央協を離れましたが、その後 JLMM も六本木にあるフランシスコ会ヨゼフ修道院に移転しました。そして、なんと再び八幡さんがその事務所の横に移転され、再びともに活動する機会に恵まれました。隣にはいつも温かい八幡さんがいらっしゃる。そんな安心感の中、日々活動することができました。

天に帰られた八幡さん、今度は主とともに、私たちMISSIONナリーの活動を見守ってください

いね。八幡さん、ありがとうございました！

八幡とも子さんを偲んで

事務局 山田 真知子

いつも変わらない八幡さんとじっくりお話ができたのはお仕事を引きついでのからのことです。大先輩とお互いに心の内を話し合った事が良い思い出です。亡くなる数週間前まで、間は

あけながらも、あれこれ仕事のことをご相談すると何にでも答えて下さいました。今はその相談もできずに呆然としています。しかしいつも平常心の八幡さんを見習って、少しでも近づけるように頑張ろうと思っています。八幡さんやすらかにお休みください。ありがとうございました。

連載

「海外宣教」

石川県能登半島からの声と感謝

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

元旦に石川県、特に能登半島に大地震と津波があり、大きな被害が発生しました。

希望を失うほどの新年の始まりでしたが、あの地域に暮らしているブラジル人たちが、埼玉、栃木、群馬県におられる仲間たちに緊急の助けの叫び声をあげました。寛大にも連帯の反応はすぐにありました。特に本庄教会には2、3日で沢山の支援物資が届き聖堂に積まれました。1月6日の土曜日に栃木県大田原市のブラジル人たちがトラックで本庄教会まで来られ、荷物を乗せて出発しました。往復2日間、ちょうど成人の日が月曜日でしたので余裕をもって帰りました。本庄教会の主任である私の弟のアンヘル神父に届いた感謝の手紙を皆さんと分かち合います。毎日のニュースでご覧になっているように被災地ではまだとても苦しい状況の中で暮らしています。お祈りと出来る範囲での支援をよろしくお願いします。

(さゆり、ミレナさんの手紙)

2024年1月1日、友達の家で家族で遊びに行っていました。娘が公園へ行きたいと言ったので私たちはそちらへ向かいました。主人と娘が公園の方へ歩いて行き、私は赤ちゃんと一緒に車の中で待っていました。

2分ほどたった時に地震が襲ってきました。ひどい揺れで車が前へ飛ばされそうな気がしたので、私は車の背もたれにつかまりました。主人が車に戻って来るように、私は一生懸命車のクラクションを鳴らしました。横を見ると、波が足元まで押し寄せてきて、沢山の人が倒れていました。神社の鳥居も倒れて、電柱がゴムのように揺れていました！恐ろしかった。主人が車に戻り、急いでアパートの方へ向かいました。途中、津波警報のアラームやサイレンが鳴り続

け避難を呼びかけていました。アパートで布団、おむつ、ミルクを持って避難所へ向かいしました。でも山の方へ向かう車の列が長くて、国道には入れない状態でした。みんな同じ山を目指していたのです。諦めてアパートへ戻る事に決め、6階まで上がり、そこに避難する事にしました。アパートの方へ津波が押しよせて来ない様に祈りました。常に揺れていました。アパートの周りに落ちた荷物を拾い集めました。アラームが鳴ると、泣きたくなるほどのトラウマになり、辛かったです。

アンヘル神父様の監督のもと、埼玉県北ブロック大司教区の兄弟姉妹の皆様から始まった行動を通して、そしてブラジル人共同体深谷教会のオニシ・シルレイ様の様々な調整のお陰で、なんとか生活することができました。5台のトラックを調達して、5トンのお水、数千個のカップラーメン、お米、赤ちゃん用から大人用までのおむつ、生理用品、布団等の寄付が集まり、被災者の居る避難所へ配送されました。1月1日の石川県能登半島の地震の被災者は、お年寄りが最も多かったそうです。全ての財産を失っただけではなく、家族や友人まで亡くしました。その大きな苦しみと悲しみの中で、皆様の愛情と暖かいご支援が、どんなに嬉しかったか、言葉では言い表せない程です。この支援は、本庄市、伊勢崎市、太田市の教会の兄弟姉妹がボランティアの精神をもって協力してくださり、素晴らしい愛の種まきの奉仕活動となりました。私たち小松カトリック共同体は、この寛大な取り組みに関わった全ての方々に感謝し、皆さまのために祈ります。ありがとうございました。(さゆり、ミレナより)



本庄教会の聖堂と駐車場に置かれた支援物資



支援物資を乗せる5台のトラック

新しい支援者

馬目 さた（神奈川県藤沢市） 今井 万里子（香川県さぬき市）

事務局より

- ◎ 2024年の元旦は能登の大地震によって再びすさまじい光景に身体が固まってしまいました。1月中旬、北陸地方の会員の方数名にお見舞いの電話を差上げた所やはり大変そうでした。輪島の方にはついぞつながらず金沢教会の方のお話では名古屋教区からと札幌教区の方々がすでに教会に泊まりこんで活動をされているとの事でした。亡くなられた方々のためにお祈り申し上げ、これからの大変な復興のために息の長い支援が望まれるところです。1995年1月の阪神淡路大震災、2011年3月の東日本大震災そして2016年4月の熊本地震を思い出し忘れることなく常に備えることの大切さに気づかされます。
- ◎国内大変な時ですが、日本を心配しながらも常に海外で頑張っている宣教者の為に、今年もお力をお貸し頂きたいと思えます。
- ◎ご家庭に眠っている、未使用のはがきや切手をお送りください。通信費として大切に使用させていただきます。
- ◎3月31日の復活祭に向けて様々良い祈りと準備ができますようにお祈り申し上げます。

編集後記

◇新型コロナ感染が少しずつですが落ち着き始めたら、新年早々、能登半島で大きな災害に見舞われました。一日も早い復興をお祈りしています。昨年11月に八幡さんの訃報の知らせを聞いた時、信じられない思いでした。9月頃、電話を頂いて病状を伺い、最後はホスピスかターミナルケアに入所したいとの事で、手続きをしたばかりでしたので、とても心残りでした。でも、安らかに逝かれたと聞きました。これからもずっと見守って下さい。（い）

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会